

みる つくる
かたる

2007



VOL.34
NO.1 (通巻95号)

ART NEWS 千葉県立美術館報

「ユトリロ展」ーモンマルトルの詩情ー

近代フランス洋画を代表する洋画家であるユトリロ (1883~1955) は、日本でも根強い人気のある画家の一人です。ただユトリロの歩んできた画業は平坦なものではなく、人間関係での苦悩や飲酒による問題を繰り返す中、生まれ育った場所であり、人生の大半を過ごしたパリ、モンマルトルの街並みを描き続けました。

ユトリロの生涯を振り返るとき、母親であり画家であったヴァラドンとはとても大きな存在でした。ヴァラドンの私生児として生まれたユトリロは、その後も母親の奔放な生き方によって愛情を注がれること無く寂しい少年時代を送りました。ユトリロは内向的で神経質ではあったが激しやすい性格であったとも言われ、アルコールの勢いも加わり、モンマルトルのいたるところで彼の奇行を目撃した市民は多かったといえます。20歳頃から酒量も増え、入退院を繰り返していた頃が皮肉にも彼の画家としての生涯の中で最も充実していた「白の時代」でした。

白の時代は1909年頃からのおよそ5年間をさします。ユトリロが描く白は、建物の壁の漆喰の白の表現にほかなりません。少年時代に祖母と二人で暮らしていた頃、壁材の漆喰で遊んで孤独を紛らわしていたユトリロが、のちに漆喰や卵の殻、砂などを絵の具に混ぜて独自のマ



《パリのサン＝セヴラン教会》1910年頃

チエールを作り上げていったのです。孤独で苦悩を内包していたユトリロが、^{せいひつ}静謐でもの悲しさを湛えた作品を描くことに漆喰の白は見事に呼応したといえるでしょう。

19世紀末、パリで次々と起こった芸術運動にユトリロは一切関心を



《ラパン＝アジル》1912年

抱かず、画家たちとの接触もほとんどありませんでした。ユトリロの描く侘びしげで薄汚れた街並みや教会、階段、石畳は、他の画家の影響からではなく自身の感性や心象といったものから生まれたものですが、実際のモンマルトルよりもはるかにモンマルトルの空気や匂いを感じさせるとも言われます。

ユトリロにとって最も大切な女性が生母ヴァラドンであったといわれます。わが子を省みず、たとえ寂しい少年時代を送ることになり、ユトリロの絵を売って贅沢をする母親ではあってもユトリロにとっては聖なる女性に代わりはなかったのです。アルコール依存症治療以来、ユトリロにも徐々に信仰心が芽生え、ヴァラドン没後は自宅の礼拝堂に籠もって祈ることが多く、波乱に富んだ前半生とは対称的に深い信仰の中で穏やかな晩年を送りました。

本展では白の時代から晩年に至るまでのユトリロの作品約80点を御紹介します。うち32点は日本初公開の作品です。油彩画約60点に水彩画、版画のほかパレットなどの油彩用具や関連資料や写真などでユトリロの画業を回顧します。また展覧会に関連した講演会やコンサート、ワークショップも行います。詳しくはお問い合わせください。

(金田雅成)

会 期 7月14日(土)～8月26日(日)

休 館 日 月曜日(7月16日は開館し翌日休館)

開館時間 9:00～16:30(金曜日は18:00まで)

入 場 料 一般800円 高大生400円

65歳以上・中学生以下は無料。

©Jean Fabris 2007, ©ADAGP, Paris, SPDA, Tokyo

平成19年度アート・コレクション展 を紹介します

アート・コレクションでは、ほぼ年間を通して行う「浅井忠・フォンタネージとバルビゾン派」とともに、コーナー展示とテーマ展示を行います。コーナー展示は、主に作家に焦点を当て、数点の作品を紹介する小さな展覧会です。また、テーマ展示はジャンルやモチーフに焦点を当てた展示です。

アート・コレクション「主展示」

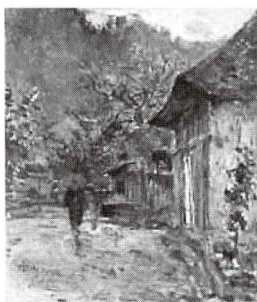
「浅井忠・フォンタネージとバルビゾン派」

【第2展示室】

4月1日(日)～7月8日(日)・9月1日(土)～10月8日(月)・11月24日(土)～平成20年3月30日(日)

浅井忠は、佐倉藩士の浅井常明の長男として生まれ、明治9年(1876)工部美術学校に入り、イタリア人画家アントニオ・フォンタネージに学びました。フォンタネージは、1855年パリ万国博覧会で、はじめてコロー、ルソー、ドービニーなどのバルビゾン派を知ります。さらに、コローやディアズと親交のあったラヴィエと知り合い、自然主義絵画に傾倒して行き、バルビゾン派の画風の流れに位置する作家となります。

工部美術学校の画学生たちは、本格的な美術教育を受けることとなり、特に風景を描くことを学びます。浅井は、フォンタネージからバルビゾン派を知ったと思われ、フランス留学中の明治34年(1901)12月にバルビゾン



浅井忠《小丹波村》

村を訪れ、ミレーのアトリエのスケッチを残しています。

この展示では、浅井を中心に、師のフォンタネージの作品や、ミレー、コロー、ディアズなどのバルビゾン派、さらにラヴィエの作品を紹介します。

アート・コレクション「コーナー展示・テーマ展示」

(10月上旬までの日程と内容)

【第1展示室】

【渡辺學と小野具定】 4月24日(火)～5月27日(日)

渡辺學と小野具定の2人は、ほぼ同時期に活動し、海や漁村、そこに住む漁師の姿、あるいは廃船・廃屋など

を題材にするなど作風に共通点を見出すことができます。

【日本画の鳥】 4月17日(火)～5月20日(日)

【浅井忠の日本画・工芸】 5月22日(火)～7月8日(日)

浅井忠は、晩年に過ごした京都で多くの日本画や工芸図案を描きました。その日本画や図案をもとに制作された工芸品を紹介します。

【黎明期の洋画】 5月29日(火)～7月8日(日)

幕末の若林鍾五郎をはじめ、明治初期の浅井忠、五姓田義松などの作品、日本の風俗を描いたビゴー、ワーグマンなどの作品を紹介します。

【若木^{たかし}山】 9月1日(土)～10月8日(月)

院展で活躍し、装飾的な画風で水や花などを描いた若木の作品を紹介します。

【猪俣伊治郎】 9月1日(土)～10月8日(月)

革を素材として、洗練されたフォルムや構成で抽象的な世界を表現する猪俣の作品を紹介します。

【第3展示室・第8展示室】

【書之美】 4月1日(日)～5月20日(日)

【異国の情景】 5月12日(土)～7月8日(日)

ヨーロッパ・アジアなど世界各国の風景や風俗を、油彩・水彩・日本画で描いた作品を紹介します。

【ガラスの彩り】 5月26日(土)～7月8日(日)

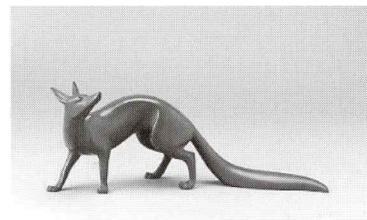
岩田藤七、藤田喬平など吹きガラスの技法などで制作された色彩豊かなガラス作品の数々を紹介します。

【水彩画の歩み】 9月1日(土)～10月8日(月)

日本で広く流行し、ひとつのジャンルとして確立した水彩画の流れを紹介します。

【金工の世界】 9月1日(土)～10月8日(月)

本県ゆかりの香取秀真、津田信夫をはじめ、金工史上で活躍した作家の作品を紹介します。



津田信夫《月下妖麗》

19年度企画展「種谷扇舟」展

11月24日(土)～平成20年1月20日(日)

書道芸術院展・毎日書道展などで活動し、近代詩文の第一人者であった種谷扇舟の書の世界を回顧します。

(渋谷さゆり)

平成18年度の企画展関連事業 を振り返って

平成18年度に千葉県立美術館では、県立美術館・博物館合同企画事業「染めと織り」、企画展「日本のわざと美」展—重要無形文化財とそれを支える人々—、企画展「—悠久のロマンを現代に—篠崎輝夫」の3回の企画展示を行いました。「染めと織り」展—4,384名、「日本のわざと美」展—3,568名、「篠崎輝夫」展—5,724名の入館をいただきました。

県立美術館では、芸術をより深く理解していただくために、単に展覧会を御覧いただくだけでなく、ワークショップ、実技講座、ガイダンスなど、多方面からアプローチをする試みを行っています。18年度の企画展では、そのような観点から以下のような関連事業を行いました。

県立美術館・博物館合同企画事業「染めと織り」関連事業

「型染彫り」と「柿渋染め」を実体験することにより、染めの技術の一端に触れ、より深い理解ができる試みを行いました。

■12/2・9 ワークショップ「コースターを染めよう」

(参加者2日—52名 9日—53名)

「柿渋」で好みの模様を染める合羽摺りを行いました。

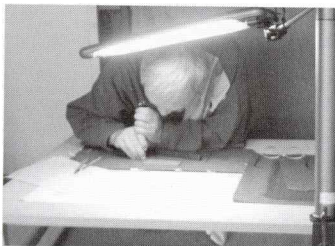
■1/7 ワークショップ「テーブルセンターを染めよう」

(参加者36名) 渋紙で型紙を彫り、柿渋で合羽摺りを行いました。

企画展「日本のわざと美」展—重要無形文化財とそれを支える人々—関連事業

身近に重要無形文化財保持者の技術を見たり、伝統と創造に生きる話を聞いたりすることで、作品を多方面から一層深く理解することを目指しました。

■11/25・26 製作実演「伊勢型紙彫り」(見学者1,124名)



重要無形文化財保持団体である「伊勢型紙技術保存会」の会員4名により、伊勢型紙の主要な技法の製作実演を行いました。

■11/26 ワークショップ「はがきを染めよう」(参加者47名)

伊勢型紙技術保存会の講師を招き、渋紙に型紙を彫り、絵の具で色を差した、はがきを作りました。

■12/3 美術講演会「色鍋島のこころ」(参加者112名)

重要無形文化財保持者である陶芸家で、色鍋島今右衛

門技術保存会会長でもある第14代今泉今右衛門氏を講師に招き、講演会を行いました。

■12/10 「浅間神社神楽上演会」(参加者188名)

千葉県指定無形民俗文化財に指定されている稲毛区の浅間神社の神楽連を招き、8座の舞を行いました。

企画展「—悠久のロマンを現代に—篠崎輝夫」関連事業

成田に生まれ、絵馬やシルクロードをモチーフとした篠崎輝夫の芸術を、いろいろな方向から理解する一助として、「芸術的感性を育んだ成田」の芸能や文物を体験する事業や、「シルクロード」を音で体験する事業などを行いました。

■1/27 美術講演会「篠崎輝夫を語る」(参加者210名)

篠崎輝夫と同時代に画壇で活躍した、洋画家で日本芸術院会員である寺坂公雄氏を講師に招き、講演会を実施しました。

■1/27 「成田楽笑会による獅子舞」(参加者138名)

成田に生まれ、在住した篠崎輝夫にちなんで、成田祇園祭の祭礼に奉納される獅子舞を上演しました。

■2/11 「門前町の文化と食」

成田に生まれ、在住した篠崎輝夫にちなんで、成田市と協力し、成田の物産品の販売、焼き芋の配布、餅つきの実演などを行いました。

■2/11 「モリンホール(馬頭琴)の調べ」(参加者266名)

篠崎輝夫の絵のモチーフであるシルクロードにちなみ、内モンゴル自治区出身で、モリンホール演奏家のエルデンダライ氏を招き、演奏会を実施しました。

■2/24 ミュージウムコンサート 歌とピアノ三重奏による「世界と日本の名曲集」～旅のロマン～(参加者210名)

ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーによるコンサートを行いました。

■2/3 ワークショップ「シルクロードであーと体験」(参加者38名)

「篠崎輝夫」展を鑑賞後、等身大の自分の形を段ボールに写し取り、シルクロードの布をプリントしたシールやカラーシールなどで装飾をしました。



■2/10 ワークショップ「シルクロードであーと体験」

(参加者19名) 「篠崎輝夫」展を鑑賞後、シルクロードにちなんだ模様や、好みの図柄を型紙に彫って、顔料で色差しを行い、テーブルランナーを染めました。

平成19年度 行事案内

ワークショップ

今年度は7回のワークショップを予定し、すでに1回目「ビッグ・ペイントあーと」は好評のうちに終了しました。今後予定しているものは以下のとおりです。

◆「県民の日エンジョイあーと」 6月16日(土) 500円

カンバッジや染めものの他にもう1種、合わせて3種の創作体験をします。できた作品は持ち帰ることができます。こども達が丁寧に作品作りに向きあえ、大人数が受け入れられるよう、細かく時間を区切って実施します。

◆「モノレールはりっ子あーと」 7月7日(土) 500円

ユトリロの展覧会に先駆け、モノレール千葉駅の連絡通路をユトリロ・カラーで彩ります。ユトリロの建物の色をシールにし、こども達の感性で高さ90cm、総延長40mの壁面を飾ります。

◆「ユトリロであーと①」 8月11日(土)

「ユトリロであーと②」 8月12日(日) 各回1,000円

ユトリロの描いた街並みに、自分が迷い込んでしまったら……をテーマにこども達の想像力を形にします。

このほかにも、1月にシルクロードに関したものの、2月に版画にちなんだ内容のワークショップを開催します。

今後のワークショップでは、展覧会の作品を鑑賞し、そこからイメージしたものを形にするという方法で、日常の生活や小・中学校ではでき得ない内容のものを計画中です。

※参加ご希望の方は、往復はがきに、希望ワークショップ名、住所、氏名、電話番号、学校、学年を明記の上、〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1 千葉県立美術館普及課までお申し込みください。

実技講座

銅版画講座

〈内容〉銅版画を通して版画の魅力を味わい、凹版画の基礎的な技法や幅広い版画の表現力、創作力を習得します。

〈日程〉7月18日(水)、19日(木)、20日(金)、25日(水)、26日(木)、27日(金)

〈定員〉20名 〈講師〉上田靖之先生

〈費用〉8,000円 〈締切〉7月5日(木) 必着

ホリデーアート木版画講座

〈内容〉多色摺り木版画を通して、版画の持つ魅力を味

わい、年賀状として作品を完成させる講座です。

〈日程〉12月1日(土)、2日(日)

〈定員〉27名 〈講師〉上田靖之先生

〈費用〉5,000円 〈締切〉11月15日(木) 必着

※参加希望の方は、往復はがきに講座名・住所・氏名・電話番号をご記入の上、〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1 千葉県立美術館普及課までお申し込みください。応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

キッズ・サマーコンサート

「ユトリロ展—モンマルトルの詩情—」の開催中に関連事業として、千葉県立千葉女子高等学校オーケストラ部によるコンサートを行います。美術館でバリを描いた絵画を鑑賞した後、音楽でバリを感じてみるのはいかがでしょうか。申込等は不要です。

〈期日〉7月28日(土) ①14:00～ ②15:00～

〈場所〉第7展示室

利用案内

開館時間 午前9時～午後4時30分

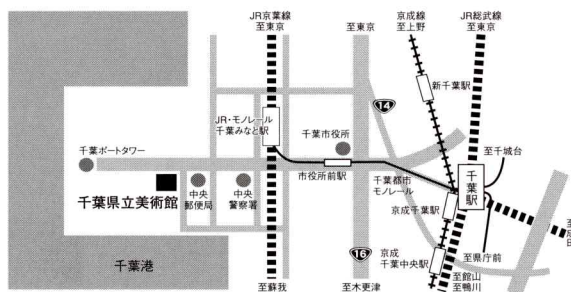
入場料 常設展 一般 300円 高校・大学生 150円

ユトリロ展 一般 800円 高校・大学生 400円

種谷扇舟展 一般 500円 高校・大学生 250円

小中学生・65歳以上・障害者手帳保持者の方(介護者含む)は無料です。お得な「パスポート」もございます。詳しくは、お問い合わせください。

交通



JR京葉線・千葉都市モノレール 「千葉みなと駅」下車徒歩8分
JR総武線 「千葉駅」下車東口2番バスのりばから「千葉ポートタワー」行「県立美術館・中央郵便局」下車徒歩1分
〈東京方面から〉東関東自動車道「湾岸習志野」I.Cから約20分
〈成田方面から〉東関東自動車道「千葉北」I.Cから約25分

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

電話 043-242-8311

<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

千葉県立美術館館報「みる かたる つくる」VOL34-1(通巻95号)
2007年5月20日発行